

### 3 ダンパーで空気を調節

焼いている窯から3窯先のダンパーを開け、煙道から煙突へ空気を排気。空気の移動とともに、火も移動する。



専用の器具を使ってダンパーの開閉を行った

窯の空気の流れはダンパーで調節するのね!

### 2 仕切りは新聞紙で

焼成前の窯と窯の間は、空気の流れを調整するため、濡らした新聞紙を貼り合わせて仕切る。火が回ると、紙が燃えて窯に火が入る仕組み。

### 1 煉瓦素地を搬入

原材料を成型・乾燥させた煉瓦(煉瓦素地)を窯へ積み。搬入・搬出口以外の窯の入り口は煉瓦と泥でふさぐ。



効率よく焼けるよう隙間を空けて積み

## 図解・焼成のしくみ

16ある窯の中を、空気の流れによって火を回し、時計回りに煉瓦を焼いていきました。効率よく連続して煉瓦を製造することができたんですよ。



### 7 煉瓦を搬出

冷却した煉瓦を搬出。順番に搬入と搬出を繰り返しながら、連続して煉瓦の焼成ができる。

### 数字で知る! 煉瓦窯のすごさ

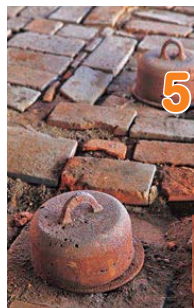
- 1窯で約1万4000~1万7000個を焼成
- 2窯での焼成時間は約60時間
- 年間の生産量は250万~300万個
- 焼成温度は800~1000℃
- 1回転の焼成に約23日間かかった

### 4 熱風が移動

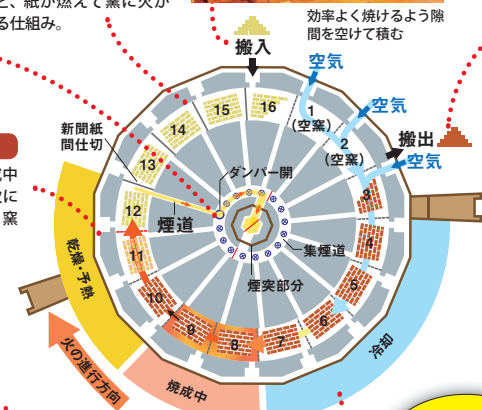
空気の移動により、焼成中の窯から熱風が移動。次に焼く煉瓦素地を乾燥し、窯の予熱ができる。

### 5 焼成は2窯ずつ

焼成は2窯ずつ行う。焼き終わったら粉炭を入れる窯と、ダンパーを開ける窯をひとつずつずらして窯内の火を次の2窯へ送る。



投炭孔には鉄製の蓋が。焼成中はかなり高温だった



### 6 冷却

焼成後の煉瓦は、空気の流れて冷却される。

空気の移動を利用した効率のいいシステムなのね!

完成した煉瓦は、鉄道の橋脚やホテルのほか酒蔵の煙突に使われました。現存するものもあります。



## 野木ホフマン館で楽しもう!

**野木ホフマン館(野木町交流センター)**  
●のぎほふまんかん(のぎまちこうりゅうせんとー)

☎0280-33-6667 (MAP)P12A2

煉瓦窯に隣接する野木町交流センターは、野木ホフマン館の愛称で親しまれている。自由に見学できる自然と歴史の展示室のほか、野木町グッズを取り揃える売店や、地元食材を味わえるカフェもある。煉瓦窯の見学と合わせて立ち寄りやすいスポットだ。



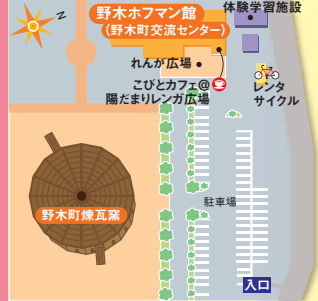
エントランス前は煉瓦が敷き詰められた(れんが広場)になっている

①野木3324-10 ②JR野木駅から車で10分  
③入館無料(研修室など施設利用は有料)  
④9~21時(10~3月は~20時) ⑤月曜(祝日の場合は翌平日) ⑥80台(うち大型バス5台)

☎0280-54-4555 (MAP)P12A2

地産地消をテーマにしたカフェレストラン。名物は、本格窯で焼き上げる窯焼きピッツアや野菜をたっぷり使った煉瓦サンドなど。地元の野菜を取り入れたメニューが登場する。▶P10

⑩10~20時、土・日曜、祝日は9時30分~21時(10~3月は~18時) ⑪野木ホフマン館の休館日、第1火曜(夏期臨時休業あり)



煉瓦窯を見学したら野木ホフマン館へ、見て、食べて、遊んで、野木町の魅力を存分に体験しよう。

**多彩な体験メニュー**

煉瓦造りの石窯で焼くピザやパンの手作り体験、煉瓦用の粘土を使ったクラフト体験講座、遊水地へのサイクリングなどを楽しめる。



**遊ぶ**

**レンタサイクル**  
町内3カ所のサイクルステーションのひとつで、無料で自転車を借りられる。渡良瀬遊水地も近く、便利な起点になりそう。

## こちらも見学を!

**新井家ふるさと記念館**

●あらいけふるさときねんかん  
☎0280-55-2107 (MAP)P12A3

明治30年代、栃木県唯一の製糸所であった旧新井家製糸所跡地にある新井家。敷地内には、国の登録有形文化財に認定された3つの建築があり、なかでも煉瓦造りの養蚕棟は野木町煉瓦窯で焼かれた煉瓦が使われている。18代新井元之助は下野煉瓦製造会社の顧問を務めていたため、煉瓦窯操業当時の貴重な資料が残る。敷地内・建物内を見学する場合は、事前に問合せをして予約を。

①野木328 ②JR野木駅から車で10分  
③個人宅のため見学は外観のみ、見学の場合は事前に問合せ ▶3台



④右の事務室、右奥の漆喰蔵、正面の煉瓦蔵が国の登録有形文化財に認定されている  
⑤廃棄する煉瓦を使い職人養成を兼ねて建造されたという

## 野木町煉瓦窯

(旧下野煉瓦製造会社煉瓦窯)

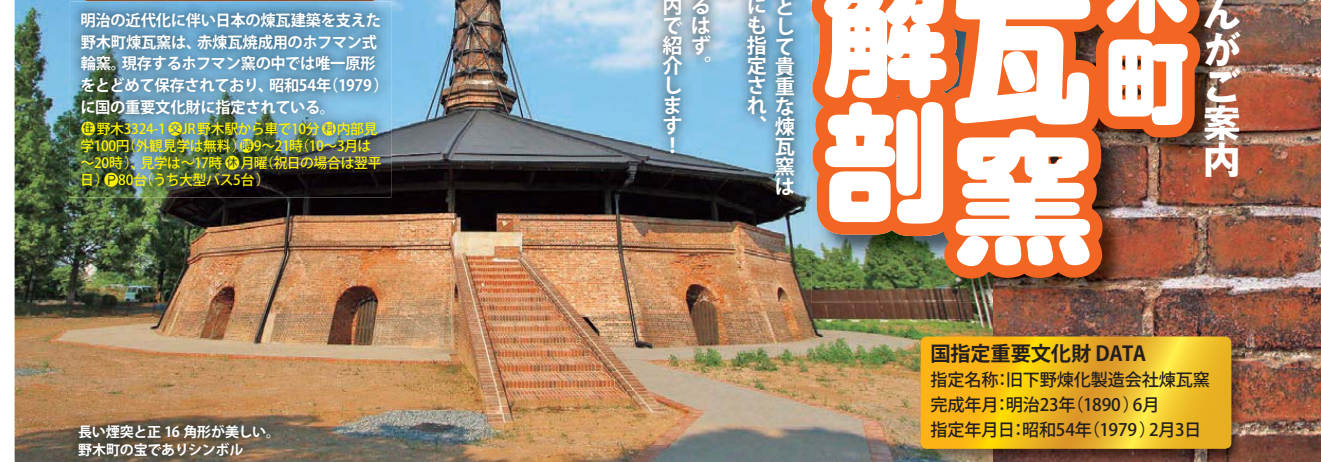
●のぎまぢれんかかま (ぎゅうしもつけれんかせいそうがいしゃれんかかま)

☎0280-33-6667

野木ホフマン館(野木町交流センター) (MAP)P12A2

明治の近代化に伴い日本の煉瓦建築を支えた野木町煉瓦窯は、赤煉瓦焼成用のホフマン式輪窯。現存するホフマン窯の中では唯一原形をとどめて保存されており、昭和54年(1979)に国の重要文化財に指定されている。

①野木3324-1 ②JR野木駅から車で10分 ③内部見学100円(外部見学は無料) ④9~21時(10~3月は~20時) ⑤見学は~17時 ⑥月曜(祝日の場合は翌平日) ⑦80台(うち大型バス5台)



長い煙突と正16角形が美しい。野木町の宝でありシンボル

近代化産業遺産として貴重な煉瓦窯は、国の重要文化財にも指定され、知れば知るほど見に行きたくなくなるはず。ガイドさんの案内で紹介します!

# 野木町煉瓦窯大解剖

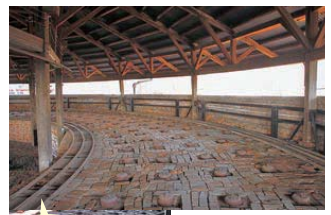
ガイドさんがご案内

**国指定重要文化財 DATA**  
指定名称:旧下野煉瓦製造会社煉瓦窯  
完成年月:明治23年(1890)6月  
指定年月日:昭和54年(1979)2月3日

## 煉瓦窯はこうなっている!

煉瓦窯は1階と2階からなり、16の窯が環状で連なる1階に生の煉瓦を入れ、2階から燃料の石炭の粉を入れて焼成しました。2016年に修復によって見学できるようになりました!

野木町煉瓦窯を愛する会 会長 小村 敏雄さん



ZOOM

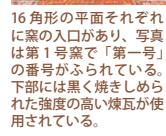
鉄製の蓋が付いた丸いものは、投炭孔といい、ここから下の窯へ粉炭を投げ入れた。粉炭はトロッコで両脇のレール上を移動させていた。

煙突の高さ34.5m

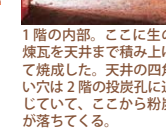
窯の直径32.8m

外周約100m

各窯は紙で壁を作って仕切っていました



16角形の平面それぞれに窯の入口があり、写真は第1号窯で「第一号」の番号がふられている。天井の四角下部には黒く焼きしめられた強度の高い煉瓦が使用されている。



1階の内部。ここに生の煉瓦を天井まで積み上げて焼成した。天井の四角下部には黒く焼きしめられた強度の高い煉瓦が使用されている。



壁の下部には煙突へと煙を送る煙道がある。



ハイスケイメージ

**見学はガイドツアーで!**  
煉瓦窯内の見学は、ボランティアガイドの解説付き見学ツアーに参加しよう。煉瓦窯の成り立ちや、仕組みについて理解が深まる。事前に予約が必要。

☎0280-33-6667 野木ホフマン館(野木町交流センター)  
①野木町煉瓦窯見学100円 ②9~17時、解説付き見学ツアーは1日7回開催(9時30分、10時30分、11時30分、13時、14時、15時、16時)、所要約40分

## Q 煉瓦窯とは?

**A** 野木町煉瓦窯は、ドイツ人のフリードリヒ・ホフマンが1858年に発明した「ホフマン輪窯」という様式の窯。16区画の環状の窯で、整形した生の煉瓦を連続焼成できる施設。明治23年(1890)から昭和46年(1971)までの約80年間煉瓦を生産した。

## Q どうして野木町にできたの?

**A** 煉瓦の原材料として、渡良瀬遊水地の湿地帯から粘土と、思川から川砂を採取できたため。当時は煉瓦工場の敷地内まで運河が引き込まれ搬入していた。

## Q 産業遺産として価値が高い理由は?

**A** 明治以降、建築材料として需要が高まった煉瓦製造のために日本に導入されたホフマン窯のうち、円形のもので、かつ原型をとどめているのは野木町煉瓦窯のみ。創業当時、東窯と西窯があったが、西窯は関東大震災で崩壊した。

## 「恋人の聖地」に認定!

2017年、「恋人の聖地」に認定された野木町煉瓦窯とハート池(→P7)。産業遺産の野木町煉瓦窯とハート池とよばれる谷中湖をめぐる。

